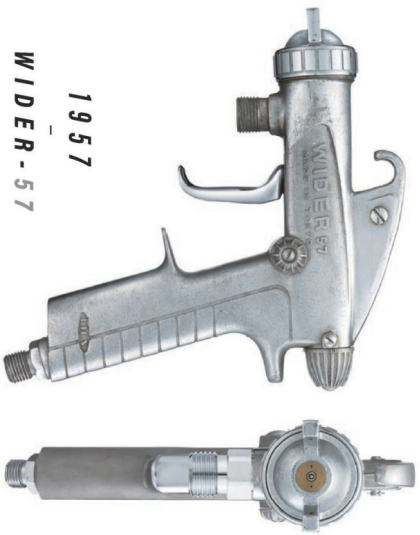


Episode of
WIDER
Since
1957





1957
WIDER-57



1977
WIDER-77



1985
WIDER-85



1987-88
WIDER-87



1988
WIDER-88



1990
WIDER-90



1970
WIDER-70



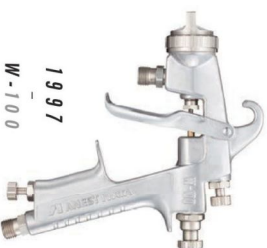
1971
WIDER-71



1959
WIDER-59



1960
WIDER-60



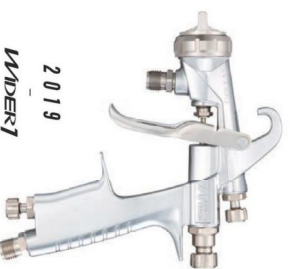
1997
W-100



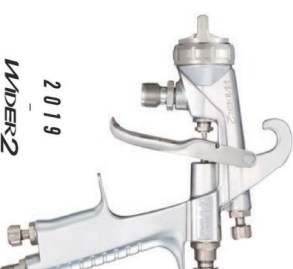
1997
W-200



2005
W-101



2019
WIDER1



2019
WIDER2

STORY

1957年から現代にいたるまで、スプレーガン市場の第一線で活躍しているロングセラー商品たち。初期では“WIDER”と命名され、中期には“W”と進化を遂げた。そして現代、再び“WIDER”という名で継承され続けている。

ロ
0 から、

WIDER
へ。

1950年代、当時はS形(小形)スプレーガンとB形(大形)スプレーガンが当社の主力製品であったが、さらなる製品開発の強化を期し、「WIDER」ラインを新たに立ち上げた。
WIDERとは、スプレーガンで最も重要なポイントの一つである、「広いタンク幅」と「さまざまな分野・市場に幅広く対応できる」また、「製品が世界へ販売拡大・促進される願い」を込めて命名された。

Background - 背景 -

それは、誕生初期から現代まで 愛され続ける名機。

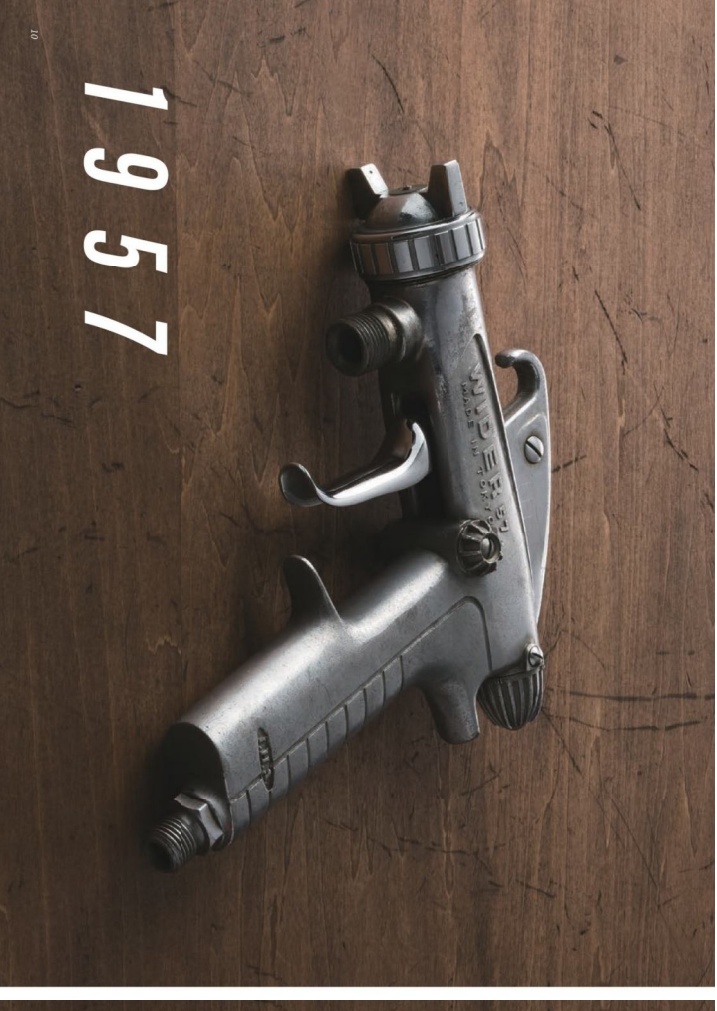
1954年、終戦後10年を待たずに始まった高度経済成長時代、活発化する日本国内産業の好景気は、様々な分野における産業構造の高度化につながり、塗装業界にも大きな波となり押し寄せていた。自動車、汽船、船舶、運送物などが次々と進んでいくと、それに伴い塗料の使用量も年々増加。その塗料量の増加により、スプレーガンへの需要もさらに大きくなっていった。

そこで、さらなる新製品開発に本格的に取り組むため、当時一貫生産を可能とする設備を整えた鶴島新工場に、当社として初めて研究室開発室を設置した。

研究室開設当時は効率的な霧の粒子の大きさを科学的に測定する

方法すらなく、アメリカやヨーロッパでも経験に頼っていたのが実情であった。そこで当社は機構を理論的に解明することで、さらに高性能のスプレーガンが開発できるのではないかと考えた。その結果、スプレーガンの基礎である「なぜ霧になるのか」という原点から研究を始め、スプレーガン先端部（ノズル）の中心塗料孔、ミヤツツの中心空気孔、角の空気孔等の形状、寸法等を約4年の歳月を費やし、徹底的に洗い直し、理論的に解明することができた。誕生初期から現代まで、超ベストセラー機となった名機の歴史がここから動き始め、時代が求める方向へと歩みを進めた。





1957

WIDERR-57 WIDERRの始まり 大形スプレーガン



WIDERRの歴史はここから始まった。1957年、通産省(現経済産業省)応用研究奨励補助のもと、技術者の基礎研究をベースに開発された高性能大形スプレーガン。部品内蔵式「バタン」構造のワンタッチ調整等のユニークな機構と斬新なデザイン。当

社製品として初めて人間工学に基づいた設計を行い、高機能をもつ大形スプレーガンとして市場を占領した。塗料ノズルと空気チャックを中心とした大きさや位置による気圧を解析し、独自の計算方式を得た。この理屈は今でも活かされている。





1959

WIDER-59 作業効率の追求
中形スプレーガン



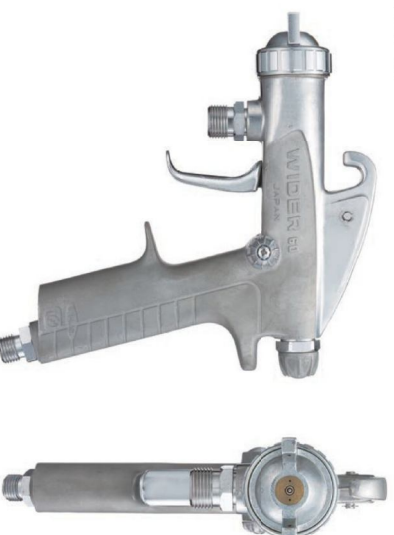
1959年、当時生産されていたS-3小形スプレーガンの
微進化を向上させ空気使用量を抑え、作業効率を追求し
た中形スプレーガンを開発。基本構造はWIDER-57大
形モデルがベース。シンプルながら、ワンタッチ操作可
能なバウンス調節装置、塗料調節装置などのデザインを踏
襲し、握り部に空気調節装置を設けた。





1960

WIDER-60 大形機種へ、さらなる進化
大形スプレーガン



1960年、各方面で好評を博していたWIDER-57大形スプレーガンの改善改良を目的として開発された。WIDER-57においては、塗料供給方式は圧送・吸上げのみの対応であったが、WIDER-60では重カッター専用

本体も加え標準とインソフツとしました。当時本型機種の別用形として、その経済性・作業性は国内外で高く評価された。





1961

WIDER-61 頑き達まされし名機
小形スプレーガン



WIDER-59 中形スプレーガンを開発上市したが、市場への浸透に遅れがみられた。空気キャップ角部の強度不足があったことと、当時併売していたS3小形スプレーガンへの強い慣れがあったことが主な要因であった。そこで

WIDER-61 ではこれらの欠点を全て改良し、研究成果である「塗料ノズルと空気キャップの両座公式」を用い、塗料の霧散性を向上させることに成功した。
*現在社台湾工場にて製造、超ロングセラー製品である。





1965

WIDER - 65 量産ライン専用高級仕上げ塗装スプレーガン
大形スプレーガン



1965年、大形スプレーガンとして国内で初めて、高級仕上げ量産塗装用として開発された特定市場向けのモデル。特に自動車産業などの高品質と高性能を要求される用途に対し、安定した納期化と大吐出量を目標に開発された。デザインは

600g (当時の大形スプレーガンの中では軽量)、引き金を長く取り扱っても痛めて容易であった。それまで高級仕上げに使用されていた外国製スプレーガンに対し、性能、品質共に遜色もなく、価格は外国製品の約1/3と低価格を実現していた。





1970

WIDER-70 高耐久オールラウンド大形スプレーガン
大形スプレーガン



1970年代は塗装技術発展のころにあつて生産形態の近代化が促進され、スプレーガンへの需要がさらに拡大していた。反面、技術労働者不足と、未経験者でも取り扱
いやすく、かつメンテナンススリーのスプレーガン開発

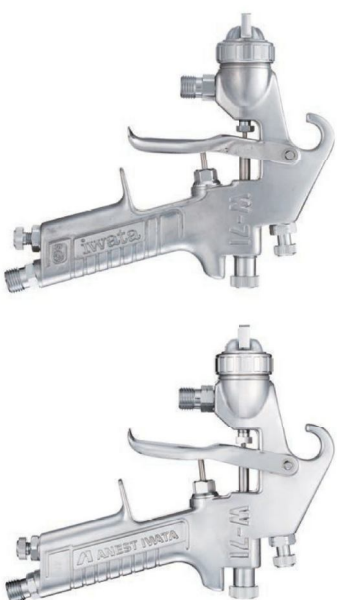
が急務となっていた。これらの条件を踏まえ、構造面を第一前提とし手戻作業でも部品の破損や紛失がない耐久性の高いスプレーガンが誕生した。





1971

WIDER-71 時代が求める製品の開発
小形スプレーガン



1971年、生産性の向上から、量産化に対応した構造及び耐久性とメンテナンス性が高いスプレーガンが求められた。WIDER65大形スプレーガンとWIDER70大形スプレーガンの実績を土台に耐久性を維持し、さらに人

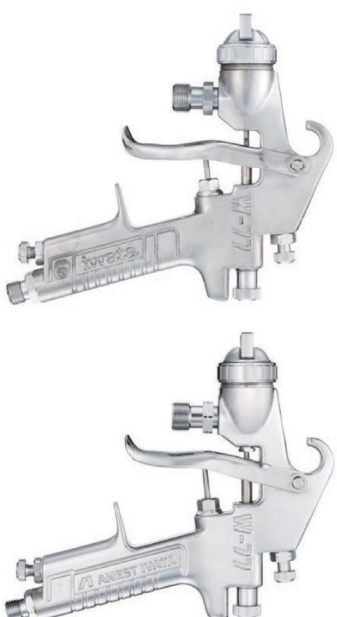
間工学を追求した小形スプレーガンを目標として開発された。技術の耐久性と優れた安定化で高級塗装用にも対応。保守点検も容易で、高い経済性も実現した。
※現在も台湾工場にて製造、超ロングセラー製品である。





1977

WIDER-77 クラス世界初への挑戦
中形スプレーガン



1977年、WIDER77は人間工学的見地から設計を見直した。大形スプレーガンの性能を有しているにもかかわらず、ハンドリングは小形スプレーガンと変わりなく軽く、握りやすさを追求し開発された。シンプルで堅牢な

構造と厳選された材料の採用で、抜群の耐久性を誇り、このクラスでは世界初の空気調節装置を付けた高級スプレーガンである。
※現在も台湾工場にて製造、超ロングセラー製品である。





1985

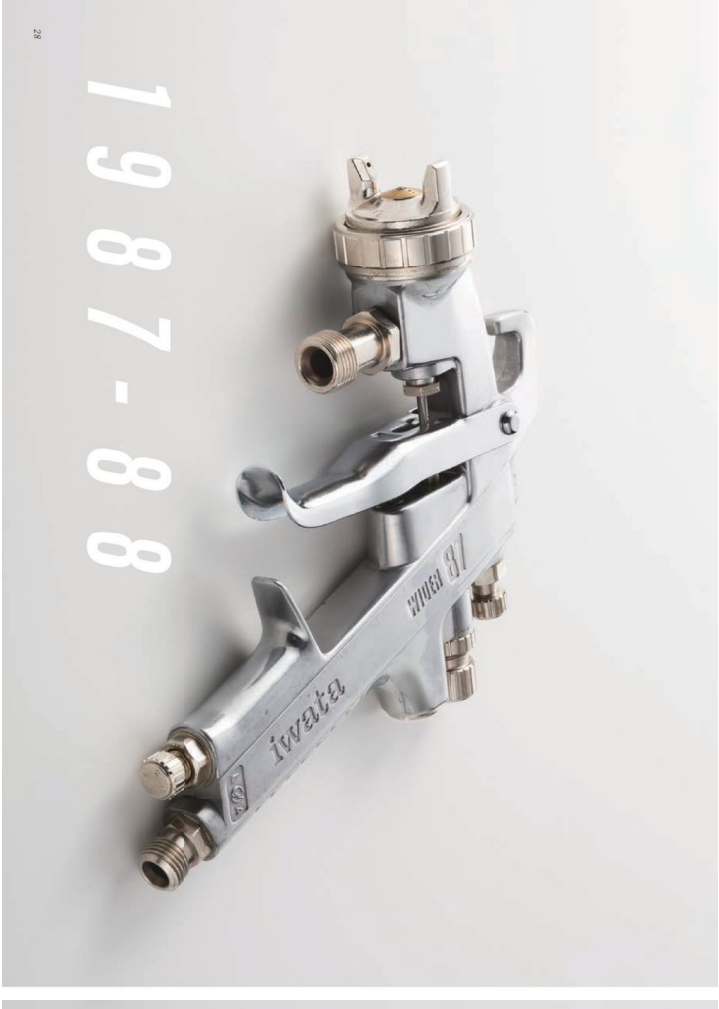
WIDER - 85 現行スプレーガンとの先駆け
大形スプレーガン



多様化する塗料・塗装条件の進化に対応できる高級指向の理想的なスプレーガンとして1985年に開発された。大形クラスでは当社初の空気流量調節装置を付けたスプレーガンであり、大膽な軽量化と細みやすさの向上、高い引金荷重致

計等、より柔軟の少ないスプレーガンとなった。また、ニール井バッキンクの構造を見直し、100万回のストロークに耐える仕様に変更。さらに、先端部が円錐形状になった空気キャップを開発し塗料付着の少ないキャップを搭載。





1987-88

WIDER-87/88 高品位スプレーガンの誕生
中形/小形スプレーガン



生産設備の最新化の一プロジェクトに伴い、従来の自社製造の水車式の空気キヤップ、塗料ノズル、本体加工専用機から、市場に出現し始めた最新鋭のNCやMC加工を導入。現在では当たり前となったデジタル製造材料ノズ

ルとニードルもこの時期から採用し、生産性をあげたため、24時間稼働可能な設備での産体別に移行を開始。自動車補修の分野でも採用されるよう、2種類の「バタン」形状、チューリップ/バタン、ストレート/バタンを採用。





1990

WIDER-90 世界市場への飛躍
大形スプレーガン



1990年、WIDER-90は自動車、家電、家具など高級志向に合わせた形でそれら商品を実現するのに最適かつ時代をリードする最高級の大形スプレーガンとして開発

された。この年から塗料接続部が完全にメカニクス化され、あらゆる塗料への対応が可能となった。



WIDER

から、

Wへ。

21世紀型環境対応商品開発のため、新プロジェクトを発足。さらなる世界躍進を目標に、心躍るから構造設計を推進す。建築のグローバルに自信作を贈るために、数々の新機能を有するスリーガンを提供すべく、「WIDER」の名称の持つ様々な想いを「W」の一字に込めた。

Developer Voice —開発者の声—

現場のお客様の声が生かされた ロングセラー製品の開発

—— OB 元 塗装機部 塗装機技術グループ 金子 亮

私が新モデルのスプレーガン開発を担っていた当時1990年～2000年代、環境問題や労働人口の減少など様々な問題がありました。私たちが、トップマネジメントとしての地位を確立するために、その時代に即した最適機能を備えたスプレーガンを継続的に開発し続け、提供していくことが重要不可欠でした。そのため、私たちは建築市場や自動車補修市場、工業塗装市場など様々なお客様の声を向いに現場へ行きました。しかし、市場別で求められる性能が異なり、どのポイントに合わせて製品を創ればいいのか、多々悩むこ

とがありました。当時W-1000の開発において、“現場のお客様の声を製品に”という信念を持ち、開発に取り組みました。特に人間工学を重視し、軽量化とハンドリング性の向上、重量バランスを考慮した設計を取り入れました。現場に伺いトラブル＆エラーを繰り返した日々は大変でしたが、お客様で当社を代表するロングセラー製品であるW-1000/101を通じて約2年間の製造・販売に繋がったのだと確信しています。





1997

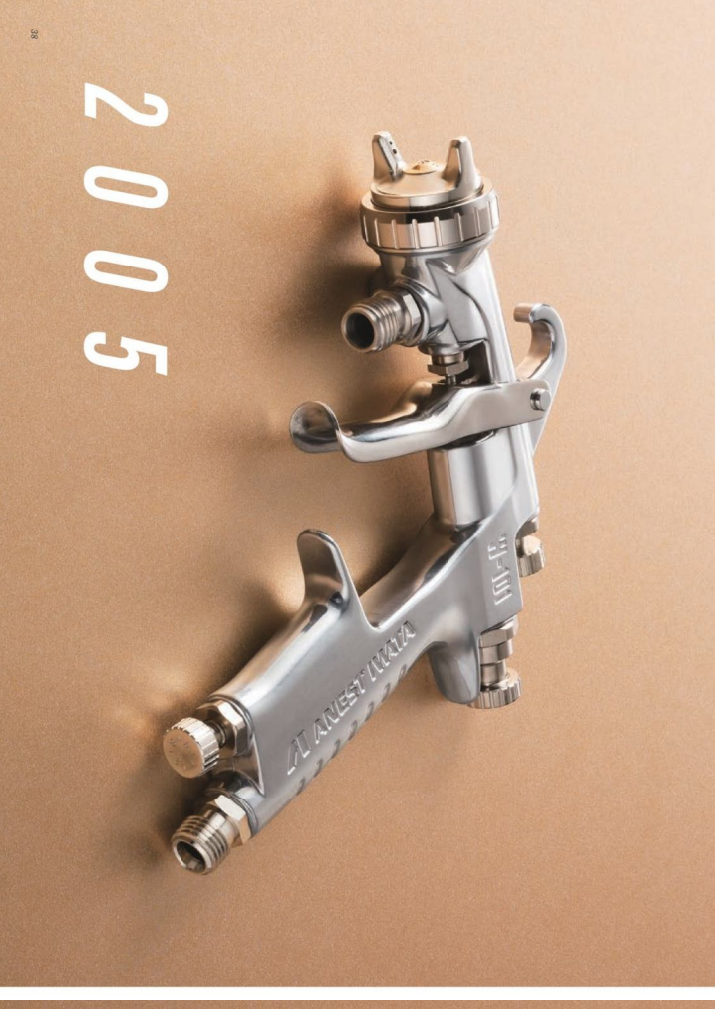
W-100/200 “W”のはじまり
 小形ノズルスプレーガン



21世紀環境友好の商品としてさらなる世界躍進を目標に、
 根本的な構造設計から見直し、塗装機器のトップマー
 カーとして数々の新機能を有する自信作を提供すべく、小
 形と大形スプレーガンを開発し、世界同時発売とした。

ラット＆ノットノズル採用で塗料が均一に霧化し、塗膜は
 フラットで塗り重ね容易。またノズル構造で作業性向
 上。さらに吹付空気圧力の低減と高効率化を両立した。





2005

W-101 世界市場のNo.1を目指し
小形スプレーガン



2005年、世界市場でのNo.1を目標に、塗装の総合コン
サルテーションを基本とした市場ごとの最適商品開発
と市場投入を行うべく、W-101小形スプレーガンのア
イナーチェンジを実施。併せて自動車補修塗装専用ス

プレーガンとして「美観シリーズ」を新規開発した。塗
料が均一に霧化し塗膜がフラットで塗り重ねがしやす
く、塗リムラを低減した。空気をヤップは穏当気流を考
慮した形状とすることで塗料付着を軽減した。



世界各国の市場に浸透した“Wシリーズ”。さらなる飛躍を
求めアネスト岩田の原点“WIDER”に立ち戻る。その思い
とは良品生産のモノづくりであり、世界中のお客様にさらな
る価値をお届けること。

W
から、

再びWIDERへ。



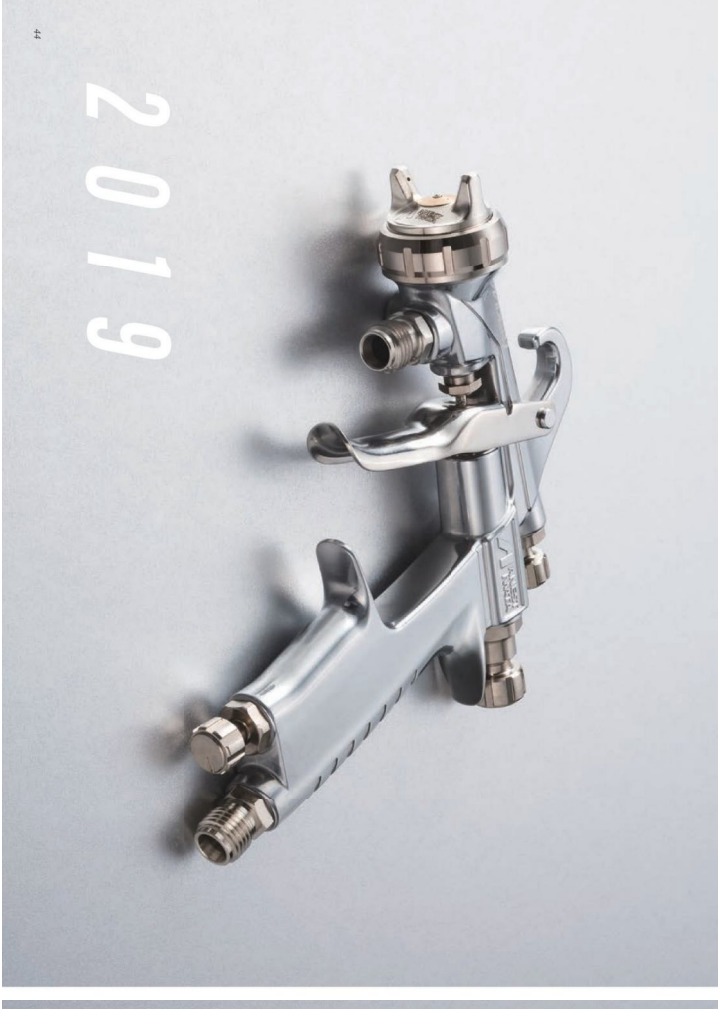
Developer Voice ー開発者の声ー

WIDERに込めた“想い”と“こだわり” Wシリーズのさらなる進化へ

—— コーティング事業部 コーティング開発部
塗装機器開発グループ 小坂 正三 / 掛端 浩之

「何にいきいきとした活かし、新規性のある技術力をもった開発型企業。これは私たちのコーポレートブランドのDNAです。塗装機器のリーディングカンパニーとして市場を活性化することは私たちの使命であり、創業37周年を迎えた今年、100年企業へとさらなる飛躍を求め、汎用スプレーガンとして世界で認知されるようになったWシリーズをさらに進化、洗練させ、プラットフォームをより急速させていくために、新製品開発に取り組みさせていただきます。まずはコーギー機にどうして扱いやすいスプレーガン、個体差なく品質が安定するスプレーガン、さらに生産効率を上げるには何が必要か、全部品を分析し、全部品の具直しを実施しました。その中で、改善のために互換性を崩すという勇気と決断が必要でした。

WIDER1/WIDER2は、どんな握り方にもフィットするグリップとトリガー形状であることと、重量バランスに優れているため、どのような市場にも対応できる万能なスプレーガンへと進化を遂げました。特に工夫した点は、空気弁システムの改良による雾化性能の安定化です。トリガー形状の微細な変更による操作性の向上や、各種パーツ部の先端にガレットを貼付けるなど、全部品に使用感をアップさせる配慮をしたことは、こだわりのポイントです。WIDER1/WIDER2はお客様に「扱いやすくなる」と言っていただけでも、ご利用いただける気配りを細部に散りばめたスプレーガンです。ご利用いただければきっと、私たちの“想い”と“こだわり”を感じていただけると思います。



2019

WIDER1 新時代の幕開け～新たな“WIDER”を求めて
小形スプレーガン



工業塗装製品において一番大切なことは「質」な品質と安定性。この原点にもう一度立ち返り、フルモリルチエングに至る。W-101小形スプレーガンのデビューから14年、その間に培ったノウハウを注ぎ込んだ最新の「小形スプレ

ーガン」。革新部である空気経路の大膽な見直しは、個体のバツつきを大きく軽減。その細致々の緻密な改良を施し、デザインも一新し、スクイッングエナジーをアップを撮く。





2019

WIDER2 新時代の幕開け～新たな“WIDER”を求めて
大形スプレーガン



W-200大形スプレーガンのデビューから22年が経過、
WIDER1と同様の機能を有し、WIDER2へトリモリアル
チェンジ。WIDER1にも搭載されている新/パツ調節装置
により、パツ調節装置の精度とパツ幅がりニア（直
線的）に反応するため感的に操作しやすくなった。また、
洗練されたボディ形状により軽量化も実現している。

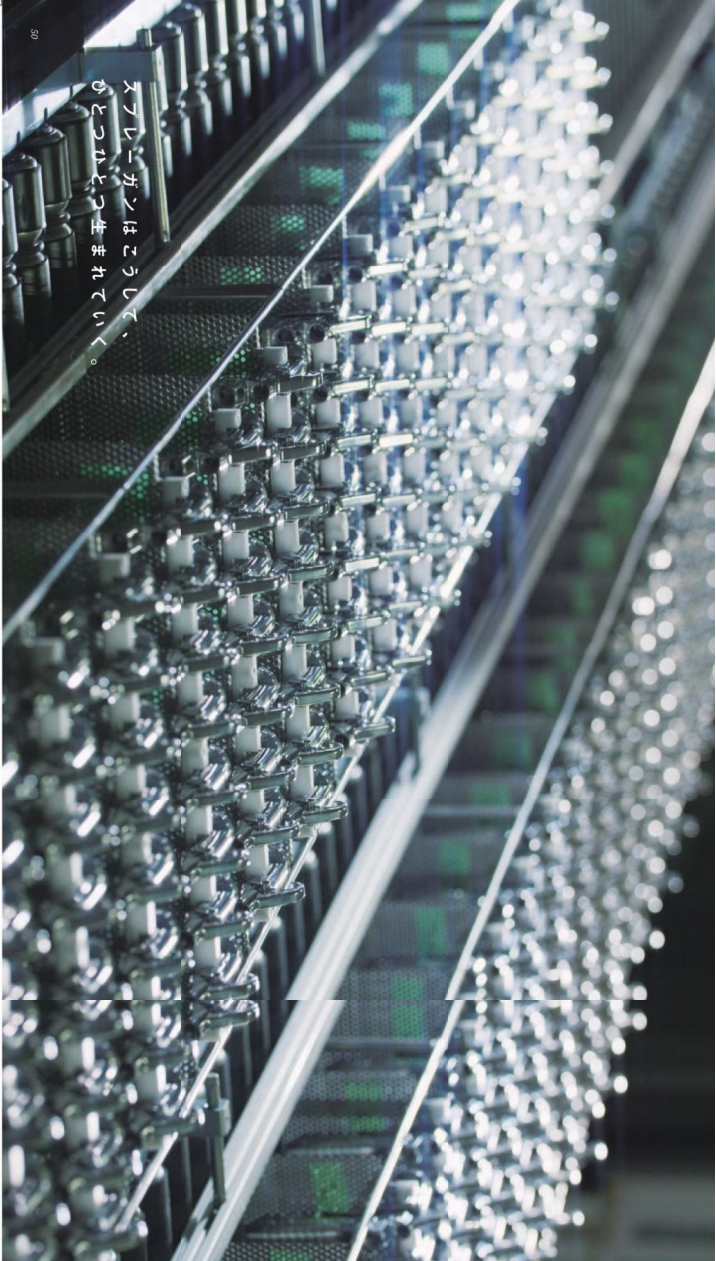




そして、新たな時代とともに、



さらなる進化を遂げていく。



スプレーガンはこうして、
ひとつひとつ生まれていく。

あ と が き

1926(大正15)年5月1日、当社は茶谷区豊沢町(現在の重比寿)の工場の一隅を借り、中古旋盤2台を運来付けただけの、小さな町工場として出発した。創業者は岩田初太郎の兄弟である。兄初太郎は1901(明治34)年8月生まれ、終生補佐役として出立された勲章は1905(明治38)年9月に生まれた。岩田製作所(創業当時の社名)は、タイプライターやペンチボール、ラジオ部品製作の下請けを行っていた。その後、外車販売などのアフターサービスや修理なども手掛けるある販売店から、高い外置式スプレーガンを同店で作ってほしいとの要望によりスプレーガン製造を開始。1927年に1号形スプレーガンが誕生し、1928年にはスプレーガンのエグゼクティブとして、小笠原信三(トヨタの開業：販売を行った)。



創業者 岩田初太郎 (1898年～1975年没) (左)
岩田 勲章 (1926年～1981年没) (右)



1号形スプレーガン
(国産初号スプレーガン)



アネキ岩田は、人と人の生活に役立つ企業であり続けると共に、創業以来の社是である「誠心(まごころ)を込めて、今後も最高の品質・技術・サービスをご提供していく。更に、既存市場だけではなく新たな分野や市場へと挑戦し、新しいソリューションを開発していく活力と新規性に裏打ちされた開発型企業を目指し続ける。

Episode of
WIDER
Since
1957

「Episode of WIDER Since 1957」
2019年（令和元年）6月発行

AI アネスト岩田株式会社

代表取締役コーポレート・マーケティング部長 岩田 博 取締役兼社長小森 朋雄 TEL:0453591114